

漁業担い手確保・育成対策について

大島支庁 林務水産課

【背景・目的】

当支庁管内における漁業者数は1,287名（2008年漁業センサス）であり、20年前の1988年と比較して36.5%の減少となっている。一方、同時期の管内総人口の減少は17.1%であり、漁業者数の減少率は人口のそれと比較して2倍以上である。また、65歳以上が占める割合は31.4%で20年前の13.7%と比較すると急速に高齢化が進んでおり、新規就労者が少ないことが原因であることがあきらかであり、若者の漁業離れ対策が急務となっている。

【普及の内容・特徴】

1. 担い手確保・育成対策

県漁連が事業主体となり実施している漁業担い手確保・育成対策事業の実施にあたり、県漁連と連携して指導者・研修生・漁協の事務指導を実施。また、新規就業相談を随時受け付け、同事業の活用を促進した。

2. 食農教育支援事業

魚食普及と併せて水産業への理解を深めてもらうことを目的に、漁業者・漁業集落・漁協・地元自治体と協力し管内小中学校において水産業体験学習等を実施した。

【成果・活用】

1. 担い手確保・育成対策

管内の研修希望者2名に対し漁業就業相談を行い、県漁連実施の研修を導入した。

また、県漁連から案内のあった県外からの就業希望者3名に対し研修を導入した。

漁協と漁業者間の相互調整を支援した結果、2名が漁業への就業を目指した研修の受講に至った。

2. 食農教育支援

- ・徳之島町立山小学校：平成23年5月23日実施

実施内容：漁業集落代表及び構成員による地元漁業及び地元水産物の説明を交え、魚の捌き方及び料理教室を実施。

- ・徳之島町立亀津小学校：平成23年11月1日

実施内容：地元の水産業及び水産物について座学を行うとともに、地元水産物を用いた簡易加工体験（くん製作り）を実施した。

- ・瀬戸内町立油井小中学校：平成24年1月20日実施

実施内容：クロマグロ養殖について座学を行うとともに、養殖現場にて給餌見学を実施した。

【その他】

長期研修生5名のうち2名が期間途中で研修中止となった。いずれの研修生も若く、さらに雇用型であった。漁業現場の雇用実態と就業希望者が希望する勤務条件とのギャップが大きかったためと考えられる。漁業現場の労働条件は厳しく、待遇面も好条件とは言い難い中で、どのようにして『乗り子』を確保するか。その課題解決は一朝一夕にはいかない状況である。

一方で独立型の研修生はいわゆる脱サラしての個人事業主候補であるためか、3名がともに比較的順調に研修を継続している。しかし研修後の就業を断念するケースもあり、儲かる漁法の選択、初期投資費用及び経営が安定するまでの運転資金をいかに確保するかが重要であるとともに高いハードルである。



図1 鮮度保持作業中の研修生（雇用型）



図2 竿釣り中の研修生（雇用型）



図3 油井小中学校生徒対象のクロマグロ養殖場見学（上）



図4 クロマグロ養殖場給餌作業見学



図5 クロマグロ養殖場給餌体験（右）